

しんみちとうげ しみずとうげ こうしんとう
新道峠(通称：清水峠)の庚申塔

指定種別：市指定文化財

指 定 日：令和7年3月27日

所 在 地：釜石市唐丹町字片岸

制 作 年：天保5(1834)年5月

寸 法：総高 201 cm

本体 高さ 185 cm 幅 92.5 cm

奥行 21.5 cm

基壇 高さ 16 cm 幅 118 cm 奥行 156 cm

銘 文：表面中央 庚申塔

表面左側 鷲峰法流苾芻龜鶴峰佛山敬書

表面下段 中村屋与七郎 西村屋善右エ門 伊勢屋利作木村屋留蔵

佐々木屋源太郎 岩城屋市兵エ 角地屋伊右エ門 鈴木屋惣吉

村上屋音吉 井上屋幸七 鈴木屋周助 川窪屋養吉 萬寿屋忠蔵

佐々木屋松之助 栗沢屋善七 村上屋儀右エ門 久津和屋源之丞

中村屋萬助 佐々木屋平右エ門 西村屋善作 屋形屋鉄五郎

裏 面 夫天保巳四年五穀不実して飢饉に及 当村貧窮のもの朝夕の喰事に
困しめり 於是上命して餘力有者より 金米を備しめ 是を以て貧
家を賑し 且人者老若女童を撰はず 日僱として米錢を以てす こ
れかために救助せしめんと比新道を開発し 古道の嶮路を除き 此
楽路を得て永世往来を安からしむ 於戯此事や当時恵とや云 世時
に宜しきとや伝むかし

天保午五年四月 白岬山翁嘉遯書

筆 者：表 面 鷲峯法流苾芻龜鶴峯佛山敬

(曹洞宗海中山盛岩寺十六世黙宗佛山大和尚)

裏 面 白岬山翁嘉遯書

(葛西昌丕：諱昌丕字廉父号嘉遯通称善右衛門)

新道峠(通称：清水峠)の庚申塔は、天保4年(1833年)に発生した飢饉を救済するため、地元の有力者が協力しながら困窮する人々を助ける新道開発を行った貴重な記録が線刻されており、当時の住職や屋号、人物を知る手掛かりとなっています。この記録は、唐丹の偉人である葛西昌丕(西村屋善右衛門)によって書かれました。

この庚申塔は、天保4年の飢饉とその救済事業である新道開発の歴史を伝える記録であるとともに、葛西昌丕の足跡を伝えるうえで重要な資料です。



【裏面読み下し文】

天保4年(1833年)は五穀実らずして飢饉に及び、当村の貧弱の者は朝夕の食事に困っている。ここにおいて藩主の命により余力あるものは、金、米を備えしめ、是を以て貧家をうるおし、且つ老若女童をえらばず、日雇いとして米銭を給した。このため此の新道を開発し、古道の嶮路を除き、この楽路を得て永世往來を樂にした。時宜を得たものというべきである。



大正二年測図

大正五年発行 大日本帝國陸地測量部(昭和二年修正)

